

ご紹介・選評

—— Profile ——

東京生まれ。日本の神話や伝承をいかしたファンタジー読物や絵本を数多く発表。『クヌギ林のザワザワ荘』で日本児童文学者協会新人賞他、『小さなスズナ姫』シリーズで新美南吉児童文学賞、『盆まねき』で野間児童文芸賞等を多数受賞している。他の作品に「葉の子先生」シリーズ、絵本「まゆとおに」など。



とみ やす よう こ
富安 陽子
童話作家

祖父母や家族の亡くなる話が多いのは、「コロナ禍にゆれる不安な社会の影響でしょうか。でも、「あ、またおじいさんが死んでる」「これはおばあさんが死んじゃった」というお話ばかりなのはどうも……。わずか10枚の制限の中で扱うには、死は余りにも重いテーマだと思っのです。年を重ねてきた私たち大人にとつて、死は身近ですが、子どもたちに向けて、死を語ろうとする時私はいつも慎重でありたいと思います。どうぞ死を物語のオチにしないでください。お願いします。

—— Profile ——

岡山市生まれ。現在は長野県大町市に在住。『季節風』同人。『たんばたろう』で毎日童話新人賞、『京のかざぐるま』で日本児童文学者協会賞、『なまくら』で野間児童文芸賞を受賞。主な作品に『風の海峡』上下巻、『すし食いねえ』『はっけよい! 雷電』『小説鶴杉』『風雪のペン』などがある。



よし はし みち お
吉橋 通夫
児童文学作家

中東のガザ地区を思わせる場所での、子ども同士の友情を描いた応募作品がありました。兵士に撃たれた犬の死を通し、大人による理不尽な戦争への深い怒りが伝わってくる作品です。残念ながら応募規定に沿っていなかったため、入賞に至りませんでした。いま世界の子どもたちは、戦争をはじめ、気候危機、「コロナ禍」など、さまざまな不安の中で生きています。その子たちに、今は違う未来がつくれることを、やさしく楽しく面白い物語の中で伝える作品を切望してやみません。

—— Profile ——

日本児童文学の研究者。立教大学文学部日本文学科卒。同大学院修了。宮城教育大学助教授等をへて、現在、武蔵野大学名誉教授。日本児童文学学会会長、日本児童文学者協会評議員も務める。『現代児童文学の語るもの』(NHKブックス)、『物語ももっと深読み教室』(岩波ジュニア新書)など著書・編著多数。



みや かわ たけ お
宮川 健郎
(一財)大阪国際児童文学振興財団 理事長

私たちは、ことばを積み上げて考えます。「寒いな」と思ったときに寒さを感じるならば、感じることも「ことば越し」かもしれませんから、ことばは、自分をつくっているものです。ことばで語る童話は、子どもたちの内面を深く耕します。ことばは、たくさん美しい蝶を飛ばし(「木箱の蝶」、クレヨンで家を建て(「お姉ちゃん不思議なクレヨン」、幼い少女を大人にします(「ナツちゃんの考え」と)。ことば遊びは、主人公を元気にします(1が2 2が4 4が8)。

審査員の

—— Profile ——

新潟県生まれ。色鉛筆を使った細やかであたたかい画風の絵を数多く発表。主な絵本作品に、『ごんぎつね』『手ぶくろを買いに』『猫の事務所』(偕成社)、『おかあさんの目』(あかね書房)、『ころわんシリーズ』(ひさかたチャイルド)、画集に『雲の信号』(偕成社)などがある。



くろ い けん
黒井 健
絵本画家

応募された作品の読者になることを毎年ワクワクしています。その上でそれぞれ作品との最初の出会いが重要に思えます。「おっ!」とか「えっ!」とか「おっ!」「あれー?」などと思いつつながら読ませてもらいます。「おっ!」と言っのは、これは面白そうだなぞということ。「えっ!」は、意外性です。「おっ!」は、凄いぞーです。「あれー?」と言っのは、疑問とか失望です。結果として、大賞に選出された作品は、書店での出版を前提としていますので、ストーリーや絵の完成度が充分な作品となりました。上位入賞作品は次回作を楽しみにしています。

—— Profile ——

愛知県生まれ。あたたかい線でユーモラスな動物たちが登場する絵本を数多く発表。主な作品に、『どっちからよんでも』(絵本館)、『ワニぼうのこいのぼり』(文芸堂)、『うし』(アリス館)、『よいこはもうねるじかん』(BL出版)、『オレ・ダレ』『プービーとすべりだい』『ふたりのナマケモノ』(いずれも講談社)などがある。



たかばたけ じゅん
高畠 純
絵本作家

絵本はその内容と絵の力で成り立っている。内容はいいけれど、絵の力が足りない。絵はいいけれど、内容が弱い、などよく評される。絵と内容どちらもクリアしなければいけない。ではどうするか。まずは「ありきたり」をやることにする。「パーティーの招待状が届いた」「今日は〇〇の誕生日」といった、その画面の動物を見ただけでも、話の筋が想像できてしまうものは、よほどの違い、展開をみせなければいけない。「ありきたり」に感動はない。ワクワクッ!として創作に向かいましょう。

—— Profile ——

同社は、「環境」「安全」「ダイバーシティ」を社会貢献領域の中期重点分野と定め、活動に取り組む。次代を担う子どもたちへの支援は、同社が社会貢献活動を通じて一貫して取り組んでいるテーマであり、1984年のグランプリ創設以来、協賛を続けている。



うち だ まこと
内田 誠
日産自動車(株)
代表執行役社長兼最高経営責任者

本グランプリは今回で38回目を迎えます。38年前の創設当時も現在も、良質の童話や絵本と出会う喜びを子どもたちに届けたいという思いは変わりません。社会の宝である子どもたちが愛情に包まれ、豊かな想像力を養い、異なる価値観を認め合える力を育みながら心身ともに成長していくことを願っています。長期化するコロナ禍にも関わらず、今年も全国から素晴らしい作品が数多く寄せられました。ご応募いただいた皆さま、グランプリ実施にご尽力いただいた関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。日産自動車はこれからも、皆さまのご協力を頂きながら、このグランプリを大切に育てて参ります。